令和4年度 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター 「『新しい生活様式』に対応した避難所アセスメント事業」

「令和 4 年度避難所アセスメント事業実施結果報告書 (兼市町毎報告書)」

令和5年3月 三重県防災対策部

三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

# 目 次

I 実施避難所アセスメント 1					
	1	目的			
	2	実施概要(実施期間、アセスメントの対象・調査・評価方法)			
	3	実施避難所における訓練内容とアセスメント結果			
II まとめ 63					
	1	事業実施結果 63			
	2	本報告書の活用65			
	3	謝辞65			

# I 実地避難所アセスメント

# 1 目的

実地避難所アセスメントでは、避難所運営マニュアルの実効性等を確認するため、実地訓練を行い有識者による調査を実施しました。

# 2 実施概要(実施期間、アセスメントの対象、調査・評価方法)

#### 実 施 期 間

アセスメント の 対 象

- 令和4年6月13日(月)~令和5年2月12日(日)
- 県内の各地域(北勢・中勢・伊賀・南勢・東紀州)から選定した以下 10 市町の避難所

市町名	実施避難所	アセスメント実施日
伊勢市	旧豊浜中学校 校舎	令和4年6月13日(月)
四日市市	桜小学校	令和4年9月4日(日)
松阪市	粥見小学校 体育館	令和4年10月23日(日)
紀北町	赤羽中学校	令和4年10月23日(日)
鈴鹿市	井田川小学校 体育館	令和4年10月30日(日)
東員町	三和小学校 体育館	令和4年11月13日(日)
亀山市	亀山市役所、関支所 関中学校 体育館	令和4年11月19日(土)
朝日町	朝日町保健福祉センター	令和4年11月20日(日)
津市	津南防災コミュニティセンター	令和5年1月28日(土)
尾鷲市	旧三木里小学校	令和5年2月12日(日)

#### 調査·評価方法

- 対象となる避難所で実施する避難所運営訓練に有識者が参加 し、避難所運営マニュアル等で定められている事項が実際に 機能しているかという観点で調査を実施しました。
- 調査結果については、有識者からのコメントを取りまとめた 各避難所専用の「実地避難所カルテ」を各市町へ送付すること でフィードバックしました。

# 3 実施避難所における訓練内容とアセスメント結果

アセスメント対象の10市町の避難所ごとの事例は、次のページからご覧ください。

# ① 伊勢市

# 令和4年度 コロナ禍における避難所運営訓練

# 訓練の内容

実施日時

令和4年6月13日(月) 13:00~16:45

会 場

旧伊勢市立豊浜中学校 校舎

住所:三重県伊勢市西豊浜町 2736

訓練参加者

伊勢市職員(危機管理部、課・避難所チーム、避難所担当職員・健康課)

概 要

本訓練は、令和3年度に実施した避難所運営訓練に続き、「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設・運営マニュアル」で示す手順、役割を避難所担当者が確認し、改善が必要な課題を抽出することで、混乱なく避難所の運営ができる状態を目指すものとして実施されました。

# ] 実施項目

# 13:00 伊勢市の現状と訓練の位置づけ等の講義

#### **13:15 個人防護服の着脱訓練**

体育館において健康課による個人防 護具の着脱方法の説明があり、訓練 参加職員は説明を受けながら実際に 着脱を行った。



#### 13:35 受付・区画設営説明

14:00

13:35 校舎で受付・区画設営の説明 14:10 校舎で運営に係る作戦会議

> 職員をA・Bチームに分け、校舎で 受付や区画設営の説明を実施。訓練 主催の危機管理課から説明を受けた 後に、どのように運営を行うのか、 作戦会議をチームそれぞれで行った。



15:00

### 14:20 運営訓練

要配慮者、体調不良者、濃厚接触 者、陽性者(軽症)等の配役を行っ た職員を避難者役に見立てて、事前 に設営した受付や居住スペースを用 いて、感染症対策に対応した避難者 の受付・誘導訓練を実施した。 Aチームの訓練中はBチームが評価

者、Bチームが訓練中はAチームが

評価者となって実施した。



16:00

16:00 運営訓練ふりかえり

16:35 講評

16:45 終了



16:45

# 特筆すべき点

#### ① 前回訓練の課題の改善

昨年度の訓練の経験と気づきを踏まえた訓練であり、昨年度よりも新型コロナウイルス感染症への対策が改善された効果的な訓練であった。このような取組を継続することで、住民が安全に安心して避難できる避難所運営を目指すことができる。

#### ② 職員間における意識の共有

危機管理の部署以外の職員も多く参加する大規模な避難所運営訓練だったが、 訓練の冒頭に伊勢市における防災の現状及び訓練実施のねらいが丁寧に説明され ていたことから、各職員の訓練に臨む意識の統一が図られ、より効果的な訓練が実 施されていた。

#### ③ 感染対策の徹底

医療保健担当課職員が避難所運営訓練に参加していることにより、個人防護具の適切な装着方法や体調不良者への受付時の対応等において、より専門的な知識を踏まえた訓練ができていた。感染対策を実施するにあたっては、医療的な知識の有無によりその効果に大きな違いが出てくるので、本訓練は医療保健関係の部署にいない職員についてもそのような知識を学ぶことができる良い機会となっていた。

## 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 避難者への対応について

### 問題点

- 受付に職員が常駐していたが、実際の災害時には、避難者への対応で一時的に不在になることも想定される。一時的に不在となった時も対応できる体制を整えておく必要がある。
- 今回の訓練は有症状者等を受け入れ、それぞれのスペースに誘導するまでを訓練していたが、実際は受け入れた後、有症状者は隔離期間が終われば、一般避難者エリアに移動する。いつ一般避難者エリアに誘導するのかを一元的に管理しておく必要がある。

#### 必要な取組

- □ 1階の受付から個人の避難スペースまでの移動手順書を作成し、避難者が到着時にまず何を行い、次に何を行えばよいか、一目で分かるような紙を配布すると、 移動に迷うことや感染リスクの低減につながる。
- □ 受付の健康チェック表に PCR 検査で陽性となった月日、自宅療養開始月日の項目を追加するとともに、一元的に管理する様式も作成しておく。

#### 避難所内での衛生対策について

### 問題点

- 施設内の消毒として、消毒箇所ごとに消毒方法や消毒頻度について、マニュアル 化されていましたが、定期的な清掃・消毒ができたかを確認するための仕組みが なかった。
- 未消毒の鉛筆が何度も使い回されていた。

#### 必要な取組

- □ 定期的な清掃・消毒ができたかを確認するためのチェックリストを作成し、清掃・ 消毒を行った都度、チェックリストを記入する仕組みを導入する。
- □ 鉛筆が入った消毒済みの箱と未消毒の空箱を用意し、避難者は消毒済みの鉛筆を 使用し、記入後は未消毒の箱に鉛筆を入れていただく。



# 実施団体(伊勢市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

#### 改善したこと

■ 混雑時に受付で三密の状況が発生しないよう、避難者を避難スペースに誘導した 後、避難者カードを記載するようにルールを変更した。

### 改善を予定していること

- 避難者が避難スペースで記載した避難者カードを確実に回収するルールを設定する。
- ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想
  - 避難所運営訓練を行ったその場で有識者からご意見をいただくことで、実際に避難所運営をする職員はいち早く課題を知ることができたため、避難所ごとの課題解決にもつながると感じた。

# ② 四日市市

# 令和4年度 四日市市 市民総ぐるみ総合防災訓練

## 訓練の内容

実施日時

令和4年9月4日(日) 8:00~11:15

会 場

四日市市立桜小学校

住所:三重県四日市市桜町 1257 番地

訓練参加者

四日市市職員、桜地区住民 等

概 要

四日市市では、行政、防災関係機関及び自主防災組織等の連携 強化と、市民の防災意識の高揚等を図るため、コロナ禍における 大規模な地震や風水害を想定した複合型の訓練を実施しました。

災害の想定としては、震度 6 強の内陸直下型地震が発生し、家 屋等の被害が発生しているとともに、降り続いている雨により河 川が増水し、住宅の浸水被害の可能性が高まっている複合災害を 想定しています。

また訓練事項は、桜地区住民訓練(避難訓練等)、市・防災関係機関実動訓練(広報車による災害広報、支援物資搬送訓練等)など多岐にわたるものであり、このうち、避難所運営訓練については、桜地区住民訓練の一部として各種ベッドや間仕切りなど、様々な備品が準備されていることを確認しました。

# 및施項目 桜地区住民訓練

#### 8:00

#### 8:00 訓練開始

震度6強の内陸直下型地震の発生に伴い、防災行政無線吹鳴・Sアラート・安全安心メール配信が行われ、住民はそれぞれ安否確認(避難行動要支援者安否確認を含む)を実施した。



9:00

### 8:20 指定緊急急避難場所への避難

訓練参加者による指定緊急避難場所への避難が行われた。

## 8:30 指定避難所(桜小)への避難開始

訓練参加者は、指定緊急避難場所で安 全確認を行った後、指定避難所へ移動 した。



9:20 避難所運営訓練(設営)

四日市市職員を中心に到着した訓練参加者とともに、避難所の設営を行った。

10:00

## 9:40 避難所運営訓練

避難所において、簡易トイレ等の様々な備品の確認、給水、給電等の訓練を 行った。



9:50 水防訓練、初期消火訓練、 倒壊家屋人命救助訓練

11:00

10:50 一斉放水訓練

11:00 閉会式(訓練講評等)

11:15 訓練終了



# 特筆すべき点

#### ① 複合災害を想定した訓練

四日市市の訓練は、震度6強の内陸直下型地震が発生し、多くの被害が発生しているとともに、雨により河川が増水し、浸水被害の発生が危惧されるという想定で訓練が行われた。複合災害を想定した訓練を実施することで、実災害への対応力強化が期待される。

#### ② 多岐にわたる訓練

コミュニティ FM による緊急放送や支援物資搬送訓練、水防訓練など、多岐にわたる訓練を行っていた。それぞれの訓練の課題を明確にすることができるとともに、各機関同士の情報の流れも確認することができる訓練となっていた。

#### ③ 地域住民や関係機関との協同訓練

市職員のみで行う訓練ではなく、地域住民も巻き込んだ避難訓練、関係機関と連携した支援物資搬送訓練を行っていた。地域住民や関係機関と顔の見える関係を築くことにつながることが期待される。

## 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 間仕切りのテントについて

### 問題点

- 間仕切りテントは感染症対策には効果的だが、夏場は熱中症が危惧される。
- 避難所の出入り口とテントの入り口が向き合っていたり、テントの入り口と換気口が向き合っていたり、避難所内の空気が循環できていない。

#### 必要な取組

- □ 季節ごとの避難所内の対策を決めておく。夏場は水分補給を心がけるように周知 することや、スポットクーラーを使用して適切な温度維持を行うこと。
- □ 避難所の出入り口や換気口とテントの入り口が向き合わないよう、レイアウトを検討する。また、換気方法も事前に決めておくことで、遅滞なく換気を実施する体制を構築しておく。

#### 屋内簡易トイレや居住区での対策について

### 問題点

- 屋内に簡易トイレを設置していたが、居住区で使用しているスリッパのまま、用 を足すことになっていたので、不衛生であった。
- 避難所の入口でスリッパに履き替え、外靴を手で持ったまま居住区内に持ち込んでおり、不衛生であった。

#### 必要な取組

- □ 簡易トイレは、屋内であっても、靴の履き替えができるよう、トイレ専用のスリッパを設置する。
- □ 外靴は靴底に汚物が付着しているので、体育館等の入り口で外靴をナイロン袋に 入れていただく。



# 実施団体(四日市市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

#### 改善したこと

● 避難所開設セットを用意しており、絶えずすぐに使用できるようにした。

# 改善を予定していること

- 車いす対応の災害時用トイレおよびマンホール設備を拡充する計画である。
- ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想
  - 今回の四日市市市民総ぐるみ総合防災訓練は、シナリオ型訓練や展示を主として 実施したことから、地域住民の代表者のみの参加に留めていた。ご意見および問 題点を提示いただき、大変有意義なものでした。

# 松 阪 市 令和 4 年度 松阪市防災訓練 (松阪市立粥見小学校 体育館)

## 訓練の内容

実施日時

令和 4 年 10 月 23 日(日) 8:00~11:30

슾 場 松阪市立粥見小学校 体育館

住所:三重県松阪市飯南町粥見3969

飯南コミュニティセンター

住所:三重県松阪市飯南町粥見3910番地1

訓練参加者

松阪市職員、松阪市防災訓練実行委員会、飯南地域住民、 飯南高校ボランティア部 等

要

概

本訓練では、新型コロナウイルス感染症の現下の状況と感染防 止対策を踏まえた避難所開設・運営訓練等を実施することで、住 民一人ひとりが、日常及び災害発生時において「自らが何をする べきかしを考え、災害に対して十分な準備を講じることができる ようになるよう、住民の防災に関する意識の高揚と知識の向上を 図っています。

そして、訓練から学んだ知識と技術を各地区で水平展開し、各 自治会に拡がることも目的としています。

訓練は、シェイクアウト訓練、避難訓練、避難所開設・運営訓 練、車両展示、啓発ブース体験、避難所運営図上訓練(HUG)に 分けて実施されました。

避難所開設訓練・運営訓練については、シェイクアウト訓練終 了後、松阪市職員から避難所開設に係る説明を受け、新型コロナ ウイルス感染症対策に配慮しつつ、行われました。

# ] 実施項目

8:00

# **8:00 シェイクアウト訓練**

防災行政無線より、緊急地震速報が吹 鳴。参加者はその場でシェイクアウト 訓練を実施した。

#### 8:05 避難訓練、避難所開設訓練

シェイクアウト訓練実施後、地域住民 は自治会で事前に決めた避難場所へ避 難を開始。避難行動要支援者役は、消 防団員が迎えに来るまで自宅の安全な 場所で待機し、消防団員が各自宅へ安 否確認に来た後、消防団員の誘導のも と、避難を開始した。防災訓練実行委 員会及び役員役は、訓練会場に移動 し、市職員から避難所開設等に係る説 明を受けた。



# 9:00 避難所受付訓練

9:30 避難所運営訓練

避難者役は、避難場所から松阪市立粥 見小学校体育館へ移動。避難者名簿の 記載、検温、手指消毒等の受付訓練が 行われた。



松阪市立粥見小学校体育館と飯南コ ミュニティセンターの2箇所で次の項 目に係る訓練を実施した。

- ・避難所のレイアウト
- ・支援物資仕分け(200人分)
- ・発電機、投光器、バルーン照明等 取扱い訓練
- ・仮設トイレ取扱い訓練





10:30 訓練終了

# 特筆すべき点

#### ① 学生と連携した避難所運営訓練

訓練は、松阪市職員の指導のもと、役員役の地域住民が主体となり、避難者の受付や避難所の開設・運営を行った。この際、地元の中高生が参加し、体調チェックを実施する事前受付を担当するなど、地域防災における若い世代の役割意識の向上につながるものとなっていた。

実災害時の避難所運営において、大人が行う対応では角が立つことも、学生等の子どもが行うことで波風が立たなくなることもあると思われる。若い世代が避難 所運営に興味を抱くきっかけとなりうる本訓練は、非常に有意義である。



地元の中高生による事前受付の様子

#### ② シェイクアウト訓練から避難所運営訓練までの一連の訓練

地域住民は、防災行政無線の吹鳴を契機としたシェイクアウト訓練に始まり、避難場所への避難、避難所への移動など、一連の動きを学ぶことができた。

また、防災訓練実行委員及び役員役に対しては、避難所開設・運営訓練も実施したことで、避難に係る一連の動きだけでなく、避難所運営等のスキル向上も期待できる。

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 季節ごとの対策について

#### 問題点

● 今回の訓練では、10月という時期もあって、比較的温湿度が適切に保たれていました。しかし、極端に寒い時期等の避難所運営における温湿度を適切に保つ対策に関しては、避難者の体調管理の観点から、対応を決めておく必要性を感じた。

#### 必要な取組

□ 避難所での寒さ対策として、床にマットを敷く、毛布を備蓄する等を行うこと。暑さ対策としては、風通しを良くし、居住空間等が日陰になるよう工夫をすること。

#### 避難者への対応について

#### 問題点

- 今回の訓練では、一般受付に女性がいなかったので、女性特有の相談がしづらい体制であった。
- 一部の避難者の方が布マスクやマウスシールドを使用していた。感染拡大防止の 観点からは、不織布マスクが推奨される。
- 避難所で避難者が今後生活していくことを想定すると、避難者がどのように感染症対策に配慮して生活を行っていくのか、そのルールが不明確であった。

#### 必要な取組

- □ 一般受付にも女性を配置して、女性が相談しやすい体制を構築する。
- □ 避難所には不織布マスクを装着して避難するよう、周知を徹底するとともに、受付に事前に不織布マスクを準備しておき、交換できる体制にしておく。
- □ 避難所内に感染症対策に配慮した生活ルールなどを掲示する。決めると良いルールの例として、マスクの着用、手指消毒の方法と徹底、密接を避けるための規則、毎日の体温・体調確認、掃除当番、ごみの廃棄方法などがある。



# 実施団体(松阪市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

#### 改善したこと

- 各地域の出前講座において、受付時における説明の中で、感染症対策としてマスク、ガウン、手袋、フェイスシールドの装着の重要性を解説してきた。
- 発熱者を誘導する案内表示について、誰が見ても誘導できるよう、表示を大きくし、色分け及び案内表記を追記した。

#### 改善を予定していること

- 発熱者との動線については、避難所別に動線確保に努め、地域で行われている避難訓練において、地域の方々と協議・検討し、訓練に臨んでいく。
- 受付に関して、事前受付、本受付に関わらず、マスク、ガウン、手袋、フェイス シールドの装着を徹底していく訓練を取り入れていく。

#### ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

● 実地避難所アセスメントにて、第三者からの視点で見ていただくことで、自分たちの対策・対応において、見落としていた点、改善すべき点などが明確になり、地域の避難所対応力、延いては地域の防災力が向上するきっかけとなった。今回、ご指導いただいたことも踏まえ、さらなる地域防災力向上に努めていく。



# 紀北町 津波災害時避難所設置訓練 (三重県総合防災訓練)

#### 訓練の内容

実施日時

令和4年10月23日(日) 9:40~11:30

会 場

紀北町立赤羽中学校

住所:三重県北牟婁郡紀北町島原 2697 番地 2

訓練参加者

紀北町職員、赤羽中学校生徒、赤羽小学校児童、 民生委員、ボランティア団体 等

概 要

三重県総合防災訓練として、尾鷲市、紀北町、大紀町、南伊勢町で訓練が実施され、とりわけ紀北町では、代替災害対策本部設置訓練、支援物資輸送訓練、津波災害時避難所設置訓練が行われました。

津波災害時避難所設置訓練は、南海トラフ巨大地震により沿岸 部の住民が津波浸水地域ではない山間部の避難所へ多数避難し た場合を想定して行われました。

# □ 実施項目

9:40

10:00

······· 9:40 避難所準備

住民課長から避難所開設の指示が担当課 員へ行われた。紀北町職員は、赤羽中学 校生徒、赤羽小学校児童と共に避難所開 設の準備を行った。準備にあたっては、 感染症対策のため、定期的な換気に配慮 して実施した。

避難所準備完了

10:00 避難者受入開始

避難所の準備完了後、避難者約30人の受 入れを行った。この際、非接触型体温計 で体温測定し、37.0度以上の避難者や 避難者受付簿で濃厚接触者となった避難 者は健康相談窓口で受付を行うなど、事 前のスクリーニングを実施し、避難者を 誘導した。



10:30 避難者支援開始

避難者の受入れ後、支援物資(毛布、 水)の配布、支援物資の受入れ、炊き出 し場所への誘導、炊き出し場所へ行けな い避難者への食事の運搬、避難者の相談 や支援等のニーズの聞き取りなど、避難 者への支援訓練を実施した。



/11:30 訓練終了・講評

11:30

11:00



# 特筆すべき点

#### ① 新型コロナウイルス感染症流行下を想定したブラインド型の訓練

設定された避難者の状態・状況が、新型コロナウイルス感染症流行下に対応するよう、よく練られており、運営スタッフへの事前の情報提供もなく、リアルな対応 を経験できるよう工夫して実施されていた。避難者の受入れを行っていく中で、避

難スペースを変更せざるを得ない避難者がいる場面なども見られたが、柔軟にレイアウトを変更するなど、対応がなされていた。また、隔離避難スペースと一般避難スペースへの動線が分けられており、受付後、感染者等と一般避難者の分離が適切になされていたほか、隔離避難スペース担当者の防護具の着用など、感染症対策の徹底が図られていた。



避難者受付簿による必要事項の確認の様子

### ② 災害対策本部員会議・支援物資輸送訓練と連動

「始神テラス」に設置された代替災害対策本部の本部員会議で、被害状況や職員の参集状況などが本部員により報告され、今後の対応方針が決定された。そこでの意思決定を踏まえ、赤羽中学校へ職員が派遣され、避難所開設となった。また、支援物資輸送訓練も別で行われており、海山リサイクルセンターを通じて赤羽中学校へ物資が搬入された。

避難所の開設、避難者の受け入れのみの訓練ではなく、多岐にわたる有意義な訓練であった。

#### ③ 小中学生と協力した避難所運営訓練

今回の訓練は、町職員と中学生・小学生で協力して行われ、若者の防災教育につ ながる素晴らしい訓練となった。

## 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 避難所内のレイアウト等について

### 問題点

- 隔離避難スペースと一般避難スペースが通路でつながっているため、避難者がその通路で交わっていた。また、2階や職員室への入室者も見受けられた。
- 隔離避難スペース内の個人スペースの広さがやや狭く、介助者が入る場合は窮屈である。
- 車椅子の方などの要配慮者が学校のトイレを使用する場合、既存の学校のトイレは使い難い。

#### 必要な取組

- □ 隔離避難スペースと一般避難スペースが通路でつながっているため、「立入禁止」 表示等でそれぞれの避難者が交わらないようにする。また、2 階や職員室などに も「立入禁止」表示があると良い。
- □ 部屋の構造上難しいかも知れないが、隔離避難スペースでは介助者によって健康 チェックや介助が想定されるので、介助者が入るスペースを含めた広さの検討が 必要。
- □ 要配慮者専用のトイレを設置することを推奨する。要配慮者専用のトイレは、介助者も一緒に入ることを想定し、ゆとりを持った広さにする。

#### 避難者受付について

### 問題点

- 避難者がどこの居住区に滞在しているのか、把握できていなかった。
- 避難者を受け付ける際、受付に手指消毒薬が設置されていたものの、スタッフと 避難者があまり消毒をしていなかった。
- 今回は健康に不安がある方を別の窓口で受け付けしていたが、認知症や妊娠中の 方と感染症疑いの方が同じ窓口で受け付けされていた。
- 避難者を隔離避難スペースに誘導する際、健康相談窓口の受付担当の保健師が誘導を行っていたため、その間、受付が不在となっていた。

#### 必要な取組

一般避難者居住区から発熱者等が発生した場合の対応のためにも、	避難者名簿な
どに滞在した場所を記載する欄があると良い。	

スタッフは避難者	首との対応ごとに手指消	肖毒することな	を推奨する。	また、	避難者に
も手指消毒を徹底	まするための声かけを行	<sub>す</sub> う。さらに、	体調不良者	等か必	の要書類に
記載した後には、	感染症予防のために、	机や鉛筆を決	肖毒するなと	ごの対策	を講じる
ことも推奨する。					

感染症疑いの方と要配慮者の対応は区別することを推奨する。		また、	人員配置の
制限もあるが	できれば担当をわけることが望ましい。		

受付が不在とならないよう、	待ち時間の短縮や感染対策の観点から、	可能であれ
ば誘導担当者を配置すること	を検討することが必要。	



# 実施団体(紀北町)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

## 改善したこと

- 受付での混雑を避けるため、事前受付で発熱者と健常者のふるい分けを行い、スタッフ不足を補う体制をとることとした。
- 避難所内に感染予防対策のルールの張り紙等を明示し、感染予防の意識付けを行うこととした。
- 高齢者や障がいのある方と一般の避難スペースの仕切りがわかりやすいように動線が一目でわかるような工夫を行うこととした。

#### 改善を予定していること

● 災害時に避難所を運営するには、管理者側に上記のような配慮(例:発熱者と健常者との待機スペースの分離や、一般避難者と要配慮者との同線の分離等)が必要となることがわかった。今後は、自治会や自主防災会へのノウハウの伝達をスムーズに行うことが必要である。

#### (2) 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

● 訓練を通じて、マニュアルと実際の動きの違いがわかった。また、学識経験者の 意見等の第三者視点があることにより、不足している部分のマニュアルへの反映 が可能となった。机上でマニュアルを作成するだけではなく、訓練を通じて対応 力が上がり、より精度の高いマニュアルとなることが実感できた。



# 井田川地区地震時避難所運営訓練

## 訓練の内容

実施日時

令和4年10月30日(日) 8:15~11:20

会 場

鈴鹿市立井田川小学校 体育館

住所:三重県鈴鹿市和泉町814

訓練参加者

鈴鹿市職員、井田川地区住民 等

概 要

鈴鹿市では、自治会役員が主体的に取り組むことで、井田川地区の防災力向上へつなげていくことを目的に、南海トラフを震源とした巨大地震の発生を想定した訓練を実施しました。

市が指定している指定緊急避難場所等へ自治会ごとに一時避難し、安否確認を行った後、指定避難所へ移動して避難所の運営を行っていました。

訓練実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策として、避難者の受入人数を当初の半数に設定して行いました。

# □ 実施項目

8:15

9:00

#### -- 8:15 大地震発生

#### 8:30 指定緊急避難場所等へ集合

和泉町(井田川小学校グラウンド) 小田町(小田町公民館) 小田野町(小田町野会館) テクノおだ(小田あらこ公園) 中冨田町の山(中冨田町の山児童公園) 中冨田町の町(中冨田町の町町民センター) 西冨田町(井田川公民館駐車場)

# 8:35 避難者確認後、指定避難所 (井田川小学校体育館) へ出発

指定緊急避難場所等で安否確認を行った後、指定避難所(井田川小学校体育館)へ移動した。指定避難所では先行して到着した自治会を中心に役割を分担し、受入態勢を整えた。

# 9:15 全地区、指定避難所 (井田川小学校体育館) に到着

手指消毒、検温、避難者カード記入 後、自治会ごとに待機。

#### 9:35 避難所運営会議開始

各自治会代表、自治会連合部関係役員、行政職員、学校長が連携して避難所運営会議を開始し、代表決定などの体制確立や状況報告、各班の役割確認等を行った。

#### 10:05 運営準備開始

各自治会単位で班を構成し、役割を分担した上で、避難者リストの作成、段ボールベッド・プライベートルーム等の搬入・設置、外トイレ確認・使い方等検討など、実際に避難所の運営準備を行った。

-11:05 まとめ

11:20 閉会











10:00

11:00

# 特筆すべき点

#### ① 指定緊急避難場所等から収容避難所への移動

訓練の会場である井田川小学校は指定避難所という位置づけであり、本訓練では、まず自治会ごとに指定緊急避難場所等へ一時避難することから始まり、安否確認を行った後、収容避難所へ移動して避難所の運営を行うという方法をとっていた。

参加者は実災害時の避難の動きを確認することができ、非常に有意義であった。 また、自治会ごとに統制がとれており、自治会ごとの防災意識向上に繋がってい た。

#### ② 各自治会と連携した避難所運営

まずは先行して井田川小学校に到着した和泉町が避難者の受け入れ体制を整え、全自治会到着後、各自治会代表、自治会連合部関係役員、行政職員、学校長で避難 所運営会議を行い、運営体制の確立に取り組んだ。井田川地区全体としての防災意 識の向上に繋がっていた。

#### ③ 避難所における感染症対策の徹底

避難者カードの記載例の掲示や複数の記載台が準備されており、避難者が密集 しない工夫がなされていた。

また、多数のクリップペンシルと回収ボックスが用意されていたことは感染症 予防に効果的であり、受付担当者も手袋、マスク、フェイスシールドを装着し、避 難者の検温や手指消毒の促しを行うなど、感染症対策が講じられていた。

さらに、体育館入口で避難所内が土足厳禁であることをアナウンスするなど、避 難所内の清潔・感染症予防に有効な対策にも取り組んでいた。

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

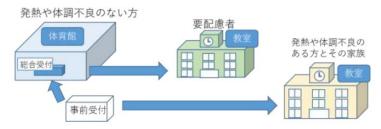
#### 要配慮者対策について

### 問題点

- 体育館内では、要配慮者スペースをトイレに近い場所に設け、また、避難所からトイレまでシートを敷き、矢印で示すなど、要配慮者に配慮したレイアウトとなっていた。このため、車いすに乗った高齢の避難者がスロープを使用し、体育館内に避難することを検討していた。
- 救護班のスタッフが避難者の中の要配慮者を把握し、聞き取りや対応方法を検討していた。

#### 必要な取組

- □ 要配慮者については、教室などの利用を検討することを推奨する。
- □ 避難所運営では、保健師等の専門的知識が必要となる場面もあるので、今後、保健師の巡回訓練や医療機関を受診できる体制づくりを検討して行く必要がある。
  - ① 発熱や体調不良のある方の専用スペースは、別棟が望ましい。



② 別棟にできない場合、発熱や体調不良のある方とその家族は、 1階の奥まった場所に誘導。



学校における専用スペース運用(例)

資料:岐阜県「岐阜県避難所運営ガイドライン「新型コロナウイルス感染症対策編」」(令和3年10月)



# 実施団体(鈴鹿市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

#### 改善したこと

● 避難者が居住スペースの場所を確認できるよう、レイアウト図を配布すること。

# 改善を予定していること

- 区画ごとに番号を付けて表示することで避難者の誘導がよりスムーズになることに加え、避難者カードに区画番号を記載すること。
- 保健師の巡回訓練の実施。

### ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

- 訓練を主催する立場では気が付かないことを、第三者的立場で意見がもらえるため、訓練の中身を改善していくうえで役立つと思った。
- 引き続き様々な市町の訓練を調査してもらい、他市町の良い事例があれば、写真等を活用して教えてもらえるとさらに良いと思った。



# 令和4年度 東員町総合防災訓練

# 訓練の内容

実施日時

令和4年11月13日(日) 7:00~10:00

会 場

東員町立三和小学校 体育館

住所:三重県員弁郡東員町長深700番地

訓練参加者

東員町職員、三和地区自治会

概 要

本訓練では、日曜日の午前7時の南海トラフ地震(M8.7)発生を想定し、被災住民に対する避難所の開設を早期に実施できるよう、自主防災組織(自治会)との協力体制を再確認し、初動対応能力の向上が図られました。

なお、実際の災害時と同様、住民が受付や資機材の設置を実施 し、町職員は補助的な役割で訓練に参加しました。

## ] 実施項目

7:00

8:00

9:00

#### - 7:00 南海トラフ地震の発生

町内で最大震度6強の地震を観測、町 内各地で甚大な被害が発生、避難者多 数発生。



住民による避難が行われた。



避難所の安全確認要員による避難所施設 の安全確認訓練を行った。

8:00 避難所開設訓練 - 2

避難所の受付要員が受付を設置するとと もに、その他の要員(設営要員)は避難 所の開設を行った。

#### 避難所運営訓練

避難所の開設と併せて、運営本部要員は 運営本部の設置を行った。

8:45 受付開始

避難所において避難者の受付を開始し、実際 に避難者名簿・台帳の作成等を行った。

9:30 訓練終了、講評、資機材等の片付け

10:00 解散











10:00

# 特筆すべき点

#### ① 住民主体の訓練

発災時を想定し、自主防災組織(自治会)で自主的に避難所運営が行えるよう、 住民主体の訓練が実施されていた。

避難所運営本部では、町職員の説明に沿って、役員が話合いによって自分たちにとって必要最低限かつ実行可能な無理のない避難所のルールを決めているという場面も見られるなど、効果的な訓練となっていた。

#### ② 避難所開設に向けた事前準備

平時から避難所開設箱が準備されており、スムーズな開設につながっていた。 また、住民は事前に避難者カードを記入してきており、総合受付では受け渡しの みを行っていたため、混雑や待ち時間の短縮につながっていた。

さらに、受付担当者も名簿を速やかに作成し、運営会議に渡すことができている など、入念に事前準備をしたことにより、円滑に訓練が実施されていた。

#### ③ 感染症対策

体調不良者は、事前受付を経て教室等(専用スペース)へ誘導することになって おり、一般避難者と区別した収容と動線分離が想定されていた。

また、事前受付に手指消毒薬及び非接触型体温計が設置され、マスク着用を促す 貼り紙も貼られているなど、避難者の感染予防意識を高めるための工夫も講じら れていた。

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 受付や居住スペースの仕切り方法について

## 問題点

- 訓練では、居住スペースの区分けに小学校体育館の2階に保存できる段ボール仕切りを活用しており、その床に地区名と番号が貼られているなど、避難者にとってわかりやすく、迷いにくいよう工夫がされていた。一方で、今回使用した段ボール仕切りは、設置時の高さが、プライバシーの保護や感染予防の観点からはやや不足していた。
- 健康相談には、保健師などの専門職を配置できれば良いが、難しいことも想定される。

## 必要な取組

- □ 飛沫感染を防ぐためには、少なくとも座位で口元より高い仕切りが望ましいため、 仕切りの高さを高くすることも今後検討していく必要がある。
- □ 地区内で、健康相談を担当できるような専門職(有資格者)を事前に把握することを検討する必要がある。



パーティションの活用例

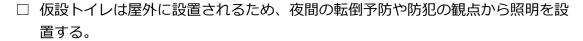
資料:内閣府(防災担当)「避難所における新型コロナウイルス感染症対策等の取組事例集」(令和3年5月)

# 男女双方の視点を踏まえた生活環境の整備について

# 問題点

● 避難所運営において、男性と女性では災害から受ける影響やニーズが異なることから、それぞれに配慮した生活環境の整備が求められる。今回の訓練では、屋外に設置される仮設トイレへの照明や、トイレ入り口への男女表示プレート等の設置が行われていなかった。

## 必要な取組



- □ 更衣のためのテント及び仮設トイレ入り口に男女表示や使用中/空きを示す表示 プレートを設置する。
- □ 事前受付や総合受付では、男性と女性の両方を配置するなど、避難者が相談しや すくなるよう工夫する必要がある。



# 実施団体(東員町)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

## 改善したこと

- 段ボール間仕切りの番号表示については、大きいサイズに変更した。
- 居住スペースへの誘導のため、レイアウト図を用意した。
- 仮設トイレ用の男女表示を用意した。
- 屋内テントの誘導等に係る表示を作成した。

# 改善を予定していること

- 仮設トイレ用の照明については防災倉庫に配備してあるので、今後の訓練には活用する。
- 今後の訓練には、仮設トイレの設置を男女別に場所を話して設置するように計画 する。
- 今後の訓練では、女性の参加を促し、受付・運営等に携わるように計画する。

# ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

● 自分たちが気付かない点を色々指摘していただき、大変有意義であった。今後は、 指摘された事項を訓練に生かし、積み重ね、実災害時に対応できるようにしてい く。



# 令和4年度 亀山市総合防災訓練

# 訓練の内容

実施日時

令和4年11月19日(土) 8:00~12:00

亀山市役所

住所:三重県亀山市本丸町 577 番地

会 場

関支所

住所:三重県亀山市関町木崎 919 番地 1

関中学校 体育館

住所:三重県亀山市関町木崎 1416 番地

訓練参加者

亀山市職員、関宿まちづくり協議会、地域住民

概 要

本訓練は、自助・共助・公助の機能を強化し、総合防災力の向上を図ることを目的に非常参集訓練、災害対策本部(図上)訓練、避難所開設(実動)訓練が行われました。

避難所開設(実動)訓練は重視事項に位置づけ、実施されました。

# □ 実施項目

8:00

9:00

10:00

11:00

8:00 地震発災・非常参集・避難行動

災害対策本部 (図上) 訓練参加者、避 難所開設(実動)訓練参加者、その他 の指定避難所職員等は、各自、決めら れた場所に参集。地域住民は避難行動 を開始。

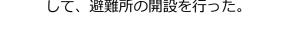


8:30 施設安全点検

関中学校体育館の指定避難所職員は、 施設安全点検を開始。

9:00 避難所開設

点検終了後、地域避難所代表者と連携 して、避難所の開設を行った。



避難者の受入れを行った。

9:30 避難所の受付開始

9:50 避難所の運営

避難者と共に避難所のレイアウトの決 定と間仕切りや各種ベッド、ワンタッ チテント等、様々な備品が準備されて いることを確認した。また、新聞スリ ッパ、段ボールベッドや間仕切りなど を作成し、避難生活の準備を行った。



------ 11:30 訓練終了

11:50 講評等





12:00

# 特筆すべき点

# ① 地域との連携を重視した実践的な訓練

避難所開設に必要な指示書、掲示物、感染症対策物品などをまとめたボックスを 事前に準備し、自治会の方々が主体となり、避難所の開錠、安全点検、避難者の受 入準備、避難者の対応といった訓練が実施されていた。

また、地域住民は訓練に参加するだけでなく、段ボールベッド、パーティションの作成、新聞を活用したスリッパの作成を行うなど、避難所開設に係る知識・技能及び団結力の向上が図れる非常に効果的な訓練となっていた。



地域住民によるパーティションの作成

#### ② 男女のニーズの違いや要配慮者への配慮

受付に女性の担当者が配置されており、女性の避難者は相談しやすいよう配慮がなされていた。また、体育館内にはプライベートルーム、パーティションと段ボールベッドが設置されており、飛沫感染防止や避難者のプライバシー保護に効果的な工夫がなされていた。

さらに、男女別のトイレと障がい者用トイレを用意するなど、様々なニーズを 持った方に応じた対応がとられていた。

加えて、冬季の場合、避難時に体育館の床に直接座って過ごすことは低体温症を招くおそれがあり、足腰の弱った高齢者には非常に負担がかかるが、居住スペースで一部の避難者に椅子を提供するなど、要配慮者への配慮も行われていた。

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 避難所内の区画について

# 問題点

- 体育館内の各区画を紐で区別していたため、複数の避難者が足に引っ掛け、転倒のリスクが高まっていた。
- 避難所内の居住スペースは地区のまとまりごとにレイアウトされており、避難所生活における緊張を和らげるためには有効と思うが、避難者が密な状態で座っていた。

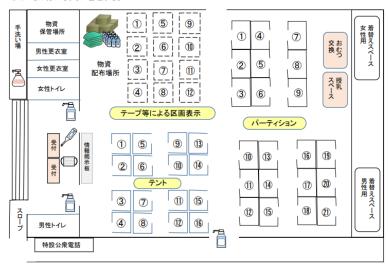
#### 必要な取組

- □ 区画の区別は養生テープ等を使用し行うことを推奨する。また、入口の段差も解消するために、可能であればスロープ板などを用意する。数センチの段差が残る場合には、色を付けてわかりやすくすると転倒リスクを低減できる。
- □ 居住スペースは家族や個人ごとのスペースを設定しておくことで感染症予防につ ながる。

#### 健康な人の避難所滞在スペースのレイアウト(例)

R2. 6. 10 第2版

●テープ等による区画表示やパーティション、テントを利用する場合は、番号等を付し、誰がどの番号等の区画等に滞在しているか分かるように管理する。



避難所滞在スペースのレイアウト(例)

資料:厚生労働省「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応の参考資料」 (第2版)(令和2年6月)

#### 様々な避難者の誘導について

#### 問題点

- 避難者は一斉に受付から体育館へ移動し、入口で着脱、手指消毒をしており、密集していた。一部の方は手指消毒に気づかず体育館内に入っていた。
- 今回、受付に女性を配置したり、障がい者用のトイレを用意したりするなど、要配慮者への配慮が随所に見られたが、聴覚障がい者への対応に関しては、不備があるように感じた。
- 避難者の誘導などを行うスタッフは、マスクを装着し、避難者の検温や手指消毒を促していたが、避難者との距離が非常に近いため、感染リスクが高まっていた。

#### 必要な取組

- □ 密を防ぎ、感染リスクを低減するために、避難者各人が避難所到着時にまず何を 行い、次に何を行えば良いか一目で分かるようなプリントを配布することを推奨 する。また、社会的距離を取るための目印や案内を準備しておくこと。
- □ 聴覚障がい者への対応として、重要なメッセージを掲示できるよう平時から準備 しておくことや、コミュニケーション手段として筆談の準備を整えておくことを 推奨する。また、聴覚障がいのある方、高齢者などの要配慮者への説明はゆっく り行い、ご理解いただけたか確認することが必要。
- □ 手袋、フェイスシールド等の個人防護具を装着し、感染対策の強化が必要。また、 受付の応対、発熱者等の専用スペースでの対応など場面ごとに想定される装備を 確認しておき、スタッフ全員で着脱手順や消毒手順を練習しておくことを推奨す る。



(参考) 避難所運営にあたり場面ごとに想定される装備

「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応に関するQ&A」(内閣府)より



# 実施団体(亀山市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

# 改善を予定していること

- 避難所のレイアウトについては、避難者の状況によって柔軟に対応できるよう、 受け入れ段階で具体化することを考えていたが、事前に作成したレイアウトに避 難者を誘導する方が効率的で対応が容易と感じた。
- ▼ニュアルの内容を実行する難しさを痛感した。地域での防災訓練の場を通じて、 業務に携わる人が確実に行えるよう、理解の促進を図っていきたい。
- 車椅子等への配慮は考えていたが、数センチの段差については特段の意識を持っていなかったので、赤いテープを張る等して改善したいと思う。

#### ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

● 第三者的立場からの評価をしてもらえたことは、大変有意義な機会となった。市で行った場合は、自己に都合の良い評価になってしまいがちで、どのようなやり方がベストなのか、明確にならないことも多くあるので、専門的見地から改善すべき点が明確になったことは、良い成果が獲得できたと考えている。今後も可能であれば、今回のような事業を活用していきたい。



# 朝日町

# 令和4年度 朝日町防災訓練

# 訓練の内容

実施日時

令和4年11月20日(日) 9:00~11:00

会 場

朝日町保健福祉センター

住所:三重県三重郡朝日町小向891-5

訓練参加者

朝日町職員、各自治区自主防災隊、各自治区住民等

概 要

本訓練は、発生直後の混乱期に自主防災隊自らが行う避難所運営訓練を中心に実施することにより、朝日町と地域住民の相互協力体制の緊密化及び住民一人ひとりの防災意識の高揚を図ることを目的に実施されました。

訓練の内容は、避難所運営訓練、救助教養訓練、炊き出し訓練、放水訓練等が行われていました。

また一般参加住民は、町内放送の吹鳴を契機に朝日町保健福祉センターへ実際に避難し、避難経路等を確認していました。

# ] 実施項目

8:45 ----

9:00

#### - 8:45 氾濫危険水位に到達(避難指示発令)

#### 8:50 避難開始

町内放送により避難指示が発令され、 一般参加住民は朝日町保健福祉セン ターへ避難。

また、自主防災隊は朝日町保健福祉センターエントランス前に集まり、隊長から役割が命じられた。



#### 9:00 防災訓練開始

#### ①避難所開設

朝日町職員から自主防災隊に対して 避難所開設の段取り等を説明し、手順の確認等を行った。

一般参加住民は、避難までの経路 で、各自注意したい点や気付いたこ と等をメモした。



# ②レイアウトづくり

朝日町職員の指導のもと、使用禁止、立入禁止エリア等のゾーンニング等を行った後、自主防災隊員が主体となり段ボールベッドの設置などを行った。



#### 10:00 救助教養訓練

レイアウトづくり完了後、救助教養訓練を実施。AEDの操作方法など、救命に関する訓練により、救命技術の習得図った。



`10:45 講評・訓練終了

11:00

10:00

`11:00 片付け

# 特筆すべき点

#### ① 町全体の防災意識の向上

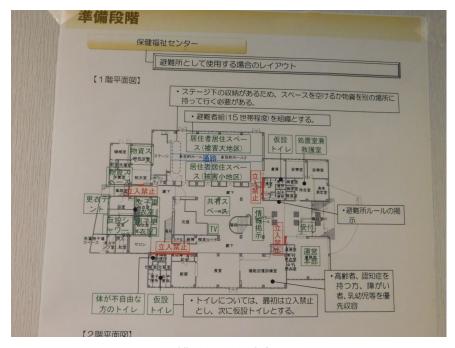
今回の訓練では実際に避難所の設営は行なっていないものの、自主防災隊が主体的に避難所運営を行えるよう、資料に基づく避難所レイアウトの確認や、段ボールベッド、パーティションの作成を行うなど、災害時に住民自身が設営することについての理解を図る内容としており、開設・運営知識の向上が図られていた。

また、一般の訓練参加住民は、実際に避難の経路を歩き、気づきをメモなど行っており、防災力の向上が見られた。

一部の地区で実施するということではなく、全自治区から参加いただいており、 町全体として防災意識の向上に繋がるものとなっていた。

#### ② 避難所レイアウトの掲示によるスムーズな運営

避難所内にレイアウトが大きく示されていたことにより、スムーズな設営につながるほか、避難所生活においても役立つものとなっていた。また、避難所内の通路が広く確保された区分けがされており、開設後の避難所生活がしやすいよう配慮されたものとなっていた。



避難所レイアウト図

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 避難所の開設・運営について

#### 問題点

- ◆ 体調不良者や発熱者への対応は「災害対策本部の指示を仰ぐ」とあったが、災害対策本部からの指示が迅速に行われないことも想定されるため、「災害対策本部の指示を仰ぐ」だけでは、実災害時の対応に遅れが生じると思われる。
- 今回は朝日町の職員が開設の説明等を自主防災隊に行っていたが、実災害時には、自主防災隊をはじめとする地域住民が自力で開設等を行うことも想定される。

#### 必要な取組

- □ 避難者受付などの対応を実災害時に直接行うのは住民になると思うので、事前に 想定される対応方法は決めておき、関係者が理解しておく必要がある。例えば、 健康チェック表を記入してもらうことや所定の場所に避難していただくことなど が挙げられる。事前に決めておくことで、災害時スムーズに対応することができ る。
- □ 避難所開設の手順については、災害発生後からの時系列に沿って、開設訓練として確認できる機会があると良い。大まかには、施設の開錠 → 施設の安全確認 → 避難所の開設、また、屋外では次々やってくる避難者の整理や事前受付(体調チェックなど)、施設内ではレイアウト(専用スペースのゾーニングなど)、動線の確保、トイレの使用差し止めなど、その後も同時進行で様々な対応が続くので、人の動きや必要な備品、資機材などについての情報共有をしておくと良い。

#### 避難所内でのルールについて

## 問題点

- レイアウト説明やダンボールベッドなどの作成時、居住スペースの入り口の扉は空いていたが、窓が閉まっていた。
- 炊き出しによる食事の配給時は、多くの避難者が密集しやすい。
- 仮設トイレでは、順番待ちなどにより、密になりやすい。

## 必要な取組

- □ 段ボールベッドなどの設営時は、埃が舞ったり、会話も多くなりがちなので、入り口の扉と対面の窓を開けて十分な換気に努めるようにする。
- □ 炊き出しによる食事の配給時は、多くの避難者が密集しやすいため、間隔を取って並んでいただけるよう、足元にテープを貼る、注意喚起の張り紙をするなどの工夫が必要。また、配給ルールも決めておくことが良い。
- □ 仮設トイレでは、順番待ちなどのためにトイレ前で密にならないようなルールを あらかじめ決めておき、手指消毒薬の設置や掃除・消毒方法を掲示する。



# 実施団体(朝日町)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、または今後、改善を予定していること

## 改善したこと

● 今回の訓練は実際に避難者の受け入れを想定したものではなかったため、流れの 説明中心の構成としていました。訓練を受け、マニュアルを再確認(事前受付か ら振り分けまでの流れ・靴袋の活用等)し、対策強化のため、防護服、ガウン等 の購入に向け予算化を検討する。

## 改善を予定していること

- 国が示す感染症対策に変化(緩和傾向)が見られるため、避難所における感染症 対策も今後の国・県の動きを参考に見直していく必要もあるのではと感じている。
- ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想
  - 感染症対策を含めた避難所運営に何が正解というものはないですが、実際に有識者の先生に訓練を見てもらい、ご意見いただいたことは非常に説得力があり、訓練参加者にも浸透したのではと思う。



車 オ

# 令和4年度 津橋南地区防災連絡協議会 避難所運営訓練・広域避難訓練

# 訓練の内容

実施日時

令和5年1月28日(土) 9:30~12:30

会 場

津南防災コミュニティセンター

住所:三重県津市半田 3249-11

訓練参加者

津市職員

津橋南地区防災連絡協議会

橋南地区地域住民(南が丘地区・育生地区・修成地区)

橋南地区においては、沿岸部の地区と高台に位置する地区があり、南海トラフを震源とする地震による津波が発生した場合には、沿岸地域の住民が高台の浸水のおそれのない地域に避難することが予想されるため、平時から避難所開設・運営マニュアルの作成等、行政と関係地区の住民等が連携して避難所運営体制の構築に取り組んでいます。

概 要

会場となった施設は高台に位置しており、津波発生時には沿岸部の住民が多数避難してくることが予想されます。本訓練は、関係地区の住民が協力して、避難所運営委員会を設置し、各地区からの避難者の受入れ、避難場所の設定、情報収集等の初動対応の確認をするとともに、改善が必要な課題等を把握し、円滑な避難所運営を行うことを目的として実施されました。

また、当該施設は、津市広域避難計画(令和4年3月策定)に 基づく広域避難施設にも位置づけられていることから、広域避難 訓練も合同で開催しました。

# □ 実施項目

9:30

9:30 訓練参加者の集合、訓練概要説明

9:40 役割分担、代表者の決定

参加した地域住民は、役割分担と代表者 を決定した。

10:00

## 9:50 避難所運営訓練

- ・避難所運営委員会の総務係が中心となっ て避難所レイアウトを決定し、各係への 指示・情報の共有を行った。
- ・各係に分かれて役割に応じた作業の訓練 を行った。

(情報・広報係)・無線機設置、通信訓練

・避難所内への掲示板設置

(施設管理係)

- 建物診断
- ・非常用発電機の確保
- ・広域避難に向けた駐車場

(食料・物資係)・保管品の確認

・炊出し機材の準備

(救護・衛生係)・感染症対策

(被災者・ボランティア管理係)・避難者の受け入れ



12:00

## 広域避難訓練

津市職員は、避難所運営訓練と並行して 広域避難対応の連絡調整や、実際の広域 避難の対応(待機場所の設定、広域避難 者の受付管理、移送車両の配置、避難者 の誘導等)を行った。

11:00 津市·自主防 防災倉庫見学、 無線機材見学、非常用発電機見学 炊き出し器具見学(LPガス調理器具、かまどベンチ)



12:00 検討結果の報告

12:15 片付け、解散











# 特筆すべき点

#### ① 複数の地区が連携した避難所運営訓練・広域避難訓練

本訓練は、沿岸部の住民を内陸の避難所で受け入れる複数地区合同での訓練であったが、当該施設には複数の地区からの避難者が集まってくるため、各班の運営委員は、役割の書かれた名札をつけ、担当や責任者がわかりやすくなるよう工夫が講じられていた。

また、訓練は住民が主体となって企画・運営しており、運営スタッフ一人ひとり が役割を理解し、協力し合って状況に応じた行動をとるなど、避難所の運営能力が 高いと感じられるものであった。

## ② 住民による避難所の開設・運営に向けた対応

あらかじめ必要なマニュアルや掲示物などを係別に分けて、透明なケースに入れて保管しておき、災害時にはそれを取り出してくることで、自主防災組織の役員ではない一般の住民だけで避難所の開設・運営ができるように配慮されていた。

また、必要な掲示物がラミネート加工済みで準備されており、すぐに掲示できる ようになっているなど、しっかりと事前の準備が行われていた。

#### ③ 要配慮者への配慮

要配慮者スペースには段ボール仕切りの中に段ボールベッドを用意しており、要配慮者の身体への負担軽減や、介助者の負担軽減につながるよう考えられていた。また、日本語と外国語、ピクトグラムを活用した掲示を行うなど、分かりやすくなるよう配慮されていた。



日本語と外国語、ピクトグラムによる掲示

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

#### 天候や季節に応じた対応について

#### 問題点

- 訓練実施日は、寒波のために事前受付・総合受付の入り口が凍結して滑りやすい 状態となっていた。
- 体調不良者のために設置された屋外テントは、感染症対策には効果的であるが、 夏季は熱中症が危惧され、冬季はかえって体調を悪化させる懸念がある。
- 寒さのため、受付時、非接触型体温計では正確な体温測定ができていなかった。
- 事前受付が屋外にあることは良いが、雨天時の対応について決めておく必要がある。

#### 必要な取組

- □ 天候・季節ごとに生じやすいリスク への対応について検討しておく。また、非接触型体温計で正確な体温測 定ができない場合は、健康チェック リストによる健康チェックを確実に 行うとともに、必要に応じて屋内で 体温測定ができるようにした方が良い。
- □ 健康チェックリストに「個別相談希望」のチェック欄を設け、健康面についての個別相談に対応できるよう、救護・衛生係に健康相談担当者を置くことも検討すると良い。
- □ 屋外の事前受付は雨天時を考慮し、 テントの使用を検討すると良い。



#### 健康チェックリスト例

資料:愛知県「避難所における新型コロナウイルス 感染拡大予防ガイドライン」(令和2年7月)

## 避難所内のレイアウトや表示などについて

# 問題点

- 事前受付では健康な状態でも、避難所内で体調不良になる場合もある。その際の対応方法が未検討であった。
- ゴミ箱が設置されていなかった。
- 既設の多目的トイレを一般避難者が使用する場面が見られた。

## 必要な取組

- □ 体調不良者が出た場合、どのエリアで対応するのか、どのように対応するのかを 事前に決めておくことを推奨する。
- □ 衛生上の観点から、ゴミ箱の設置スペースやゴミの収集方法などのルールを事前 に決めておくと良い。
- □ 多目的トイレに「要配慮者優先」という表示があると良い。



# 実施団体からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、または今後、改善を予定していること

# 改善したこと

#### (津市からのコメント)

● 施設をよく知らない避難者でも容易に備蓄品の取り扱いができるよう、備蓄倉庫内に分かりやすく表示を行ったほか、簡易間仕切りや段ボールベッドの組立マニュアルを係別に用意するよう改善した。

# 改善を予定していること

#### (津橋南地区防災連絡協議会からのコメント)

- 訓練当日は、まれにみる寒波で会場周囲の地面が凍結しており、参加者の転倒防止対策を行いながらの訓練実施に苦慮した。これを機会に、様々な季節、天候、時間帯等に応じた受付方法や、待合場所の確保を検討し、マニュアルや運営機材の整備に反映していく。
- 受付等のレイアウト、使用機材、受付方法等について、より具体的にマニュアル 化すると共に、不足する機材の充足を実施する。

#### (津市からのコメント)

● 当該施設は、災害時には指定避難所のほか、広域避難施設としても活用を想定しており、市と地域の皆さんとが協力して効果的に運営していく必要があることから、今後、広域避難の対応マニュアルを作成する予定である。

#### ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

#### (津橋南地区防災連絡協議会からのコメント)

● 当該地区は、南海トラフ地震の津波によって甚大な被害を受ける海岸地区と、避難者を受け入れる高台地区の合同での避難所運営となることから、数千人から2万人を超える避難者に対して、いかにスムーズな避難所立ち上げを行い、運営していくかを繰り返し訓練してきた。今回のアセスメントにより、これまで自覚していた問題点と、自覚していなかった問題点を確認できたので、より実効性のある避難所運営に繋げていきたい。

## (津市からのコメント)

専門的な視点から具体的な課題や改善策を示していただき、今後の避難所運営の 取組みに大変参考となった。今回指導いただいた事項等を他の避難所でも活かし、 避難所運営体制の充実に取り組んでいきたい。

# 10 尾鷲市

# 尾鷲市防災訓練(避難所開設・運営訓練)

# 訓練の内容

実施日時

令和5年2月12日(日) 10:00~12:00

会 場

旧尾鷲市立三木里小学校

住所:三重県尾鷲市三木里町 638

訓練参加者

尾鷲市職員、三木里自主防災会

概 要

三木里自主防災会では、現在旧三木里小学校における避難所運 営マニュアルを作成中です。

本訓練では、避難した地区住民がどの業務も実施できるようになることを重視し、避難所運営に必要な各班の業務について、マニュアル(案)と照らし合わせながら尾鷲市職員による講習等が行われました。講習後には、実際に避難者の受付業務等を行いました。

訓練想定は、紀伊半島東部熊野灘沖でマグニチュード 7.9 の地震が発生し、市内で震度 6 強を観測、津波注意報が発表された状況を想定しています。

# □ 実施項目

# 10:00 訓練参加者の集合、 訓練の流れ説明

訓練の流れを説明し、参加した地 域住民全員で班の編成・施設の安 全点検を実施後、避難所のレイア ウトの決定等を行った。



#### ······ 10:25 避難所立ち上げ訓練

10:30

会長から各班へ避難所開設準備の 指示を行い、尾鷲市職員の指導の もと、各班に分かれて避難所開設 に係る準備内容の確認等を行っ た。

(本部・誘導班)・本部室準備

(情報班)

・災害対策本部との

連絡

· 避難者受付準備 等

・掲示板、伝言板等の準備

・レイアウト図の掲示 等

(設営班) ・利用場所(居住場所等)のレイアウト作成

・仮設トイレ表示、仮設トイレ設置等

(給食・給水班)・備蓄食料の確認

・物資置き場・食堂、調理場・仕分室の準備等

(救護班) ・女性更衣室・授乳室の準備・表示

・感染者用スペースの確保 等



#### 10:50 第1回避難所運営会議

本部主導のもと、第1回避難所運 営会議を開催し、各班の準備状況 の確認を行った。



11:30

## 11:00 被災者受け入れ訓練等

尾鷲市災害対策本部から付与され る状況に応じ、避難所本部から各 班への連絡・指示を行った。ま た、尾鷲市職員が様々な事情を抱 えた避難者役となり、実際に避難 所で受付を行う被災者受け入れ訓 練を実施した。



11:30 訓練終了、訓練の振り返り

12:00 解散

# 特筆すべき点

## ① マニュアル案検証・修正

事前のマニュアル作成において検討されたレイアウトを避難所内に大きく掲示するなど、これまでの議論に参加していない訓練者にもわかりやすくなるよう配慮していた。

また、訓練において検証、修正できるような流れができており、地区の方々の取り組みがよくわかる内容となっていた。



作成中の避難所運営マニュアル(案)

## ② 尾鷲市災害対策本部との連携

尾鷲市災害対策本部と住民によって構成された避難所本部で連携し合い、避難 所運営を行っていた。

実災害時と同様の情報の流れを訓練でき、非常に有意義であった。

#### ③ 様々な模擬避難者の想定

高熱・咳の症状がある避難者を設定するなど、様々な事情を抱えた模擬避難者を 想定し、どんなことが起きるかイメージしやすい訓練となるよう工夫されていた。 また、感染症疑いの方の入り口や動線、居住区について、当日救護班で検討して 案を出すなど、適切な判断がなされており、今後のマニュアル作成に反映していけ る内容となっていた。

# 有識者から示された主な問題点と必要な取組

## 避難所でのトイレについて

# 問題点

- 避難所に仮設トイレを設置するとのことだが、今回の訓練では設置されていなかった。
- 要配慮者用のトイレについてはどのように対応されるか、不明であった。

## 必要な取組

- □ 仮設トイレの設置に加え、既設のトイレも活用する。既設のトイレにビニール袋をかけて代用することもできるので、検討すること。
- □ 東トイレには、洋式トイレが1つあったので、それを要配慮者優先のトイレにすると良い。

## 避難者の受付や誘導について

## 問題点

- 今回の訓練では、誘導係が各避難者を誘導していたが、大人数が避難してくると 人手不足になることが予測される。
- 避難してきてから体調を崩す方がいることも想定される。

## 必要な取組

- □ 各教室の入り口にも表示があるとわかりやすいので、表示札を事前に作成しておくと良い。また、誘導係がいなくても避難者自身が目的の場所に行けるように、例えば「○○教室に入って下さい」と受付で付箋に書いて渡す、レイアウト図に図示した番号の所に入るよう指示をする、などの工夫ができると良い。
- □ 救護班の方が避難所を巡回して避難者の体調確認をすることなどを検討する。



# 実施団体(尾鷲市)からのコメント



① 「避難所カルテ」の内容をうけて実際に避難所運営の方法を改善したこと、 または今後、改善を予定していること

## 改善したこと

- 事前受付を設置することや、健康チェックリストを新たに帳票に加える。
- 各教室の入り口に表示ができるよう事前に準備し、全体のレイアウト図も数ヵ所に表示できるよう用意する。

# 改善を予定していること

- 運営スタッフに対する感染症対策備品を備蓄品に加えておきたい。
- 避難者名簿を事前に記入していただき、避難時に持参していただけるよう工夫したい。

#### ② 「実地避難所アセスメント」に関する全体的な感想

• 市職員や地域住民とは別の視点での意見をいただき、大変参考になった。感染症対策等についてご指導いただいた内容を、今後の訓練や避難所運営マニュアル作成事業に反映する。

# II まとめ

# 1 事業実施結果

## 明らかになった課題

本事業の実施を通して、各市町において、感染症対策に配慮した避難所開設・運営の準備が着実に進んでいることが分かりました。

一方、感染症拡大防止に向けた対応は検討しつつも、実際に避難所運営訓練を行うと、適切に運営できていない場面も見られました。例えば、市町で作成した感染症拡大防止に向けた避難所運営ガイドラインなどでは「事前受付でスクリーニングを実施すること」が記載されているものの、実際の訓練では事前受付の設置がされなかったケースや、感染症の疑いのある方と要配慮者の対応を同じ担当者が対応するケースなど、避難所内で感染症が拡大する可能性もあるため、改善が必要な対応があることも明らかになりました。

また、感染症対策以外でも、避難者を受け入れる初期対応の段階では多くの役割分担と 物資が必要とされます。これらを確認するために、災害発生後の時系列に沿った開設訓練 を行い、備品の準備から設営までの手順を確認できるようにしていく必要があります。

今後、これらの課題に対し、引き続き行政と地域住民の方々が協働で訓練を行い、新た な経験と気づきを共有することで、より実効性の高い避難所運営マニュアルの作成や避難 所運営関係者のスキル向上を図っていくことが必要です。

#### 課題改善のために必要な取組

明らかになった課題に対して、県として、今後、以下の内容に取り組んでいく予定です。

# ① 避難所アセスメント調査結果の共有

本実施結果報告書を各市町等に提供し、避難所アセスメントの実施により明らかになった課題や改善方法等について共有を図るとともに、自主防災組織の構成員や市町担当職員等を対象とした「避難所アセスメント実施結果報告会」を開催し、事業成果を直接、避難所運営関係者に共有する場を設けていきます。

# ②「三重県避難所運営マニュアル策定指針」の見直し

実地避難所アセスメントの結果、避難所運営訓練で実践できていなかった内容が、各避難所の運営マニュアルに反映できるよう、その指針となる「三重県避難所運営マニュアル策定指針」の見直しを行い、各避難所における安心安全な避難所運営の実践に繋げていきます。

# ③ 自主防災組織の構成員や市町担当職員等の避難所運営スキルの向上

自主防災組織の構成員や市町担当職員等を対象に、今回の避難所アセスメントの成果を 活用して避難所運営スキルの向上を図るための研修会等を開催していきます。

# 2 本報告書の活用

避難所運営関係者の皆様には、地域での避難所運営方法の検討の場などにおいて、本報告書を活用いただき、より安心安全な避難所運営に繋げていただきますようお願いします。 また本報告書では、避難所アセスメント事業の実施により明らかになった課題やその改善方法に加えて、実地避難所アセスメントに協力いただいた市町における避難所運営訓練の内容等を可能な範囲で紹介しました。

特に、感染対策を踏まえた避難所運営訓練の実施方法が分からず、取組が進んでいない という地域につきましては、この各市町の訓練実施の内容を参考にしていただき、積極的 に、各地域の活動に取り入れていただけましたら幸いです。

#### 3 謝辞

伊勢市、四日市市、松阪市、朝日町、亀山市、紀北町、鈴鹿市、東員町、津市、尾鷲市の 10 市町の担当課の皆様及び当日の訓練に参加いただきました各地域の住民の皆様におかれましては、「『新しい生活様式』に対応した避難所アセスメント事業」に協力いただきましたましたこと感謝申し上げます。

また、本事業の実施にご協力いただきました、磯和勅子教授、水木千春助教におかれま しては、専門的な知見から調査結果の作成等についてもご対応をいただきましたこと改め て感謝申し上げます。



三重県の防災キャラクター なまず博士